

平成27年度 第4回 四條畷市総合計画審議会 会議録

日 時	平成27年12月3日(木) 15:00~17:10
場 所	四條畷市役所 本館3階 委員会室
出席者	石関 委員(会長)、明神 委員(副会長)、大川 委員、小原 委員、藤本 委員、森本 委員、渡辺 委員、河野 委員、清川 委員、田中(一)委員、中野 委員、林 委員、榊井 委員、田中(好)委員
欠席者	宮園 委員
事務局	森川副市長、開理事兼政策企画部長、田中総務部長、西尾市民生活部長、吐田都市整備部長、森本都市整備部参事、高津健康・保険担当部長、谷口健康福祉部長、坂田教育部長、北田上下水道局長、石田議会事務局長、板東企画調整課長、板谷企画調整課長代理兼主任
議 題	1 開会 2 第6次四條畷市総合計画(案)基本計画に対する意見・提言について(P48~P65までの審議) 3 その他 4 閉会
配布資料	① 次第 ② 平成27年度第3回四條畷市総合計画審議会 会議録

(文中敬称略)

事務局	<p>1. 開 会</p> <p>それでは、定刻となりましたので、四條畷市総合計画審議会を開催させていただきます。</p> <p>本日の出席委員14人、欠席委員1人でございます。四條畷市総合計画審議会条例第6条第2項の規定に基づき、半数以上の出席があったことにより、会議が成立したことを報告します。</p> <p>続きまして、本日の資料の確認をさせていただきます。</p> <p>1点が次第、2点が平成27年度第3回四條畷市総合計画審議会会議録、その他といたしまして、本日ご持参をお願いしております、第6次四條畷市総合計画（案）、第6次四條畷市総合計画策定のための中学生アンケート及び市民意識調査結果報告書並びに第5次四條畷市総合計画【後期計画】です。</p> <p>以上ですが、本日、お持ちでない委員はいらっしゃいますか。</p> <p>(なし)</p> <p>なお、机上に配布させていただいております、第3回の審議会会議録につきましては、会議録案を発送させていただいた後、11月27日までに変更等のお申し出がなかったことから確定とさせていただきますと思います。</p> <p>では、会長、よろしく願いいたします。</p>
石関会長	<p>2. 議事</p> <p>第6次四條畷市総合計画（案）基本計画に対する意見・提言について</p> <p>それでは、第4回四條畷市総合計画審議会を開会します。</p> <p>まず、次第1 第6次四條畷市総合計画（案）基本計画の48ページから65ページまでの部分について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>基本計画の48ページから65ページの説明をさせていただきます。</p> <p>時間の都合により、前回と同様に簡略化した説明となりますが、ご了承ください。</p> <p>まず、第3章 地域が、潤い、安らぎ、生きがいに包まれる環境づくりの分野、施策4 地域福祉の醸成と自立支援の充実についてです。</p> <p>めざすべき姿といたしましては、「行政や住民、地域福祉活動</p>

団体、ボランティア、福祉事業者など地域に関わる全ての主体が、自発的にそれぞれの役割を担い、『みんなの力で地域からつくる暖かみのあるまち』が実現しています。」「誰もが自立した生活を送れる地域社会が実現しています。」の2点を掲げています。

現状と課題といたしましては、核家族化やコミュニティの希薄化により、地域福祉活動を行う人が減少傾向にあること、また、多重債務や未就労などによる生活困窮と自立に対する支援が必要となっています。

市役所の取組みといたしましては、「社会福祉協議会や地域福祉活動団体と連携し、情報の共有化やネットワーク化、コミュニティ活動の促進、住民活動への支援など、地域課題を相互協力で解決する地域力強化と組織化に努めます。」を含めた5点の項目を挙げております。

また、住民・事業者の取組みといたしましては、「地域で住民同士の顔が見えるような関係をつくります。」を含めた4点の項目を挙げております。

次に、施策5 子育て、子育て支援の充実については、めざすべき姿として、「安心して子どもを産み育てる環境が整い、子どもが健やかに成長しています。」「仕事と子育てが両立できるよう、子育て支援施策が充実し、子育てへの不安感が解消されています。」「将来を担うすべての子どもたちの人権が尊重され、豊かな個性と笑顔があふれています。」の3点を掲げています。

現状と課題といたしましては、核家族化やコミュニティの希薄化により、子育てに対する不安や地域での孤立から、子育て力の低下が社会的な問題となっており、子育て世代のニーズに合った保育と相談活動の充実が急務となっています。

市役所の取組みといたしましては、「子育て支援者だけでなく、子育て中の当事者や地域も含めた連携の場を設け、地域ごとの子育て支援の拠点づくりやネットワークの形成を図ります。」を含めた7点の項目を挙げております。

また、住民・事業者の取組みといたしましては、「子どもがやすらぐ家庭環境をつくります。」を含めた3点の項目を挙げております。

次に、施策6 高齢者福祉の充実については、めざすべき姿として、「保健、医療、福祉が連携することで、地域全体での支え合いや在宅福祉を中心とした施策が充実し、高齢者が住み慣れた地域で健康で生きがいを持ち、安心して生活しています。」を掲

げています。

現状と課題といたしましては、高齢化率が増加傾向にあり、核家族化による高齢者世帯や一人暮らしの高齢者が増えるなか、住み慣れた地域で自分らしく安心して生活できるよう、その仕組みを構築していくことが必要と考えております。

市役所の取組みといたしましては、「介護保険の保険者である、くすのき広域連合やその構成市との連携により、より質の高いサービスの提供をめざします。」を含めた4点の項目を挙げております。

また、住民・事業者の取組みといたしましては、「ボランティア活動や地域の活動に参加し、生きがいや健康づくりを行います。」を含めた2点の項目を挙げております。

次に、施策7 障がい者福祉の推進については、めざすべき姿として、「障がいの有無に関わらず、すべての人が相互に人格と個性を尊重し、共生するまちづくりが行われています。」を掲げています。

現状と課題といたしましては、障がい者の在宅生活に対する支援や障がい者基幹相談支援センターの開設による相談体制の確立など、各種の支援に取り組んでおり、サービスの質と量の確保や一人ひとりの個性と能力を最大限発揮できるよう支援していくことが必要と考えております。

市役所の取組みといたしましては、「乳幼児期から生涯にわたる相談支援体制を整備し、早期に必要な支援につなげるとともに、ライフステージに応じた支援を適宜提供するなど、地域で安心して生活できる体制を構築します。」を含めた3点の項目を挙げております。

また、住民・事業者の取組みといたしましては、「障がい者への理解を深めます。」を含めた3点の項目を挙げております。

次に、施策8 「健康づくりの推進と国民健康保険の適正運用」については、めざすべき姿として、「住民が自主的に健康づくりに取り組み、食育や健康体操等を通じた健康づくりの輪が個人から家族、地域へと広がり、まち全体に健康から発する賑わいが生まれています。」、「医療費削減などの給付の適正化により、国民健康保険制度が安定的に運営されています。」の2点を掲げています。

現状と課題といたしましては、食生活の欧米化やライフスタイルの変化等から、若年層からの生活習慣の乱れが課題となってい

るため、健康教育や小児期からの保健事業の充実が必要と考えています。

また、国民健康保険については、高齢者等の増加による医療費増大に伴い、保険財政が非常に厳しい状況にあります。

市役所の取組みといたしましては、「関係機関と連携しながら、健康診査及び各種検診を受診しやすい環境づくりに努め、その結果等を活用した保健指導を実施します。また、食育の推進に関する施策の実施や訪問指導、各種教室等の実施に加え、大阪府や関係機関との連携による専門的な相談、指導等を行います。」を含めた6点の項目を挙げております。

住民・事業者の取組みといたしましては、「自分の健康に関心を持ち、健康づくりに取り組みます。」を含めた6点の項目を挙げております。

引き続き、第4章 学び、文化、スポーツから働きかける夢づくりの分野に入ります。

まず、施策1 教育の充実については、めざすべき姿として、「保育所、幼稚園、学校及び家庭のきめ細かな連携のもと、質の高い就学前教育を実践しています。」「保護者や地域住民が学校教育に積極的に参画し、開かれた学校づくりが広がっています。」「学力の基礎、基本の向上や発展を保証し、児童、生徒が安心して学べる良好な教育環境が整っています。」の3点を掲げています。

現状と課題といたしましては、子ども・子育て支援新制度の施行により、子育て世代のニーズに合った教育や教育相談活動の充実が重要視されるとともに、確かな学力の向上や豊かな心の育成、知、徳、体の調和のとれた教育が求められています。また、児童、生徒の安全確保に努めながら、学校の適正配置や特色のある教育環境づくりと併せ、施設の有効利用を行うことが必要と考えております。

市役所の取組みといたしましては、「幼保の包括的、一体的な制度運用により、質の高い教育の提供体制を整備するとともに、その充実と向上に努めます。」を含めた15点の項目を挙げております。

また、住民・事業者の取組みといたしましては、「家庭の重要性と役割を理解し、充実した家庭教育に取り組みます。」を含めた5点の項目を挙げております。

次に、施策2 青少年の健全育成については、めざすべき姿と

して、「青少年が地域の中で、ともに支え合う意識や地域への愛着を持ち、行事等に積極的に参加しています。」を掲げています。

現状と課題といたしましては、豊かな自然環境や郷土文化、大学などの地域資源の活用と次世代を担う人材育成、家庭、地域、学校、行政が一体となって青少年の健全育成に取り組むことが必要と考えております。

市役所の取組みといたしましては、「社会生活を営むうえで困難を抱える子ども、若者の自立に向けた支援体制を確立するとともに、子ども・若者育成支援推進法に基づき、不登校やひきこもりの支援ネットワーク構築に取り組みます。」を含めた4点の項目を挙げております。

また、住民・事業者の取組みといたしましては、「自然環境や郷土文化に触れ、地域のつながりを深めます。」を含めた2点の項目を挙げております。

次に、施策3 生涯学習の推進については、めざすべき姿として、「時代背景や社会状況に応じた多様な事業を展開し、幅広い世代に地域密着型の学習活動の機会と成果発表の場を提供しています。」を掲げています。

現状と課題といたしましては、住民の価値観の多様化に伴い、誰もが充実した人生を送ることができるよう、それぞれが必要とすることを必要な時に必要な方法で学べる環境が求められており、情報の提供やより多くの住民に講演、講座等に参加してもらえる環境整備が必要と考えております。

市役所の取組みといたしましては、「乳幼児から高齢者までより多くの人に利用しやすい施設にするため、生涯学習施設の整備のほか、既存施設のバリアフリー化や多言語標記を進めます。」を含めた4点の項目を挙げております。

また、住民・事業者の取組みといたしましては、「自分から学ぼうとする気持ちを大切にします。」を含めた3点の項目を挙げております。

次に、施策4 生涯スポーツの振興については、めざすべき姿として、「住民ニーズに応じたスポーツ活動の場を提供し、スポーツに気軽に参加できる環境が整っています。」「各種スポーツ団体と連携を図り、住民の健康増進や体力向上を趣旨とした活動を推進しています。」の2点を掲げています。

現状と課題といたしましては、高齢化や社会情勢の変化に伴い多様化するスポーツへの住民ニーズを把握し、地域生活に密着し

たスポーツ活動の拡大及び促進が必要と考えています。

また、現状と課題の3番に、「本市では、市民体育祭をはじめ、各種団体によるスポーツイベントを開催するほか、四條畷市総合公園の整備など、体育施設の充実に努めています。」と記載しておりますが、本総合公園については、スポーツや生涯学習機能に加え、災害時における応援部隊等の受入れや活動拠点としての防災機能の整備を予定していることから、前回ご審議いただいた、第3章の施策2 防災、減災、消防、救急の推進と充実の施策の中にも総合公園についての記述を追加したいと考えております。

市役所の取組みといたしましては、「市民総合体育館など、既存施設の適切な維持補修を行いながら、多くの住民に活用してもらえるスポーツ施設の運営を検討します。」を含めた4点の項目を挙げております。

また、住民・事業者の取組みといたしましては、「地域における各種教室やスポーツ大会に積極的に参加します。」を含めた4点の項目を挙げております。

次に、施策5 歴史、文化の保存と継承については、めざすべき姿として、「住民が郷土愛を持ち、市内に数多く存在する貴重な文化財の保護や古くから受け継がれてきた伝統文化を次世代に継承していく活動に参加しています。」を掲げています。

現状と課題といたしましては、歴史民俗資料館には多くの入館者がありますが、収蔵品を展示公開する施設や保管する施設のスペースが十分でないため、貴重な文化財を適切に保存、継承できる環境整備が必要となっています。

市役所の取組みといたしましては、「継続的な文化財調査により、本市の歴史や文化について研究し、それらの成果を講座や展示会等でより多く公開できるよう施設を整備します。」を含めた3点の項目を挙げております。

また、住民・事業者の取組みといたしましては、「郷土の歴史に関する講座、展示会、講習会等に積極的に参加して、理解を深めながら、文化財の保護活動に主体的に関わります。」を含めた2点の項目を挙げております。

次に、施策6 国際、文化交流の醸成については、めざすべき姿として、「住民自らが外国の文化や言葉を学び、多文化交流を図っています。」、「外国人や非識字者など、誰もが必要な情報が得られるよう、やさしい日本語や多言語でわかりやすい情報の発信がなされ、住みやすい環境が整っています。」、「国際化に対応

した人づくり、まちづくりにより、相互理解が深まり、国際感覚を持った住民が増え、国際交流が盛んに行われています。」「国内外の友好都市と、文化、教育など様々な面で活発に交流が進められています。」の4点を掲げています。

現状と課題といたしましては、外国人の習慣や価値観等を理解するための学習機会の充実や交流を通じた国際感覚の高揚が必要と考えております。

市役所の取組みといたしましては、「住民の国際理解の意識を高めるため、交流機会の提供や活動団体への支援を行うとともに、言語や文化に関する講座や教室を開催するなど、学習活動の充実に努めます。」を含めた2点の項目を挙げております。

また、住民・事業者の取組みといたしましては、「主体的、積極的に事業やイベントに参加、協力します。」を含めた3点の項目を挙げております。

最後に、第5章 確かな未来を築く行財政運営に向けた体制づくりの分野、施策1 効率的、効果的な行政運営についてでございます。

めざすべき姿といたしましては、「住民を主体として、効率的、効果的な行政サービスの提供が実現しています。」「様々な分野の住民ニーズに対応するため、近隣市との連携を強化し、広域的な事務の効率化が行われています。」「市政に関する情報を住民と行政が互いに共有し、公正で開かれた市政を推進しています。」の3点を掲げています。

現状と課題といたしましては、人口減少による市税収入の伸び悩み、高齢化の進展による扶助費の増加、老朽化する公共施設の維持及び更新費用の増加への対応が課題と考えております。

市役所の取組みといたしましては、「総合計画に基づき、行政運営上必要な各種行政計画を適宜策定するとともに、経営資源の最適かつ効果的な配分に努めます。」を含めた10点の項目を挙げております。

また、住民・事業者の取組みといたしましては、「パブリック・コメントや広聴事業に関心を持ち、積極的に意見を述べます。」を含む3点の項目を挙げております。説明は以上です。

石関会長

ありがとうございました。では、基本計画48ページから65ページについて、意見、提言をいただきたいと思っております。前回同様、委員の皆様それぞれからご意見をいただきたいと思っております。

河野委員	<p>が、市議会委員の皆さんには様々な視点からご意見をいただけると思っていますので、まずは市民委員の方からお願いしたいと思えます。</p> <p>それでは河野委員からお願いします。</p> <p>それぞれの分野で福祉など、色々なものに分かれています、福祉にしても教育にしても、地域で参加する取組みが先細りになっていますので、単独に分かれていますものを関連させることはできないのでしょうか。例えば、民生や福祉の委員の方であれば、その分野だけではなく、もう少し関連を増やせるように幅広く全体を見られるような体制はできないのでしょうか。</p>
事務局	<p>行政と市民の枠を離れ、市民と市民、地域と地域、団体と団体という観点でご意見をいただいたと思います。今後については、行政も然りですが、縦割りでは物事が前に進まないという観点から、協働の視点で考えるのが大前提です。</p> <p>その観点からも、例えば団体間の橋渡し役は行政が行うべきだという考えで総合計画を作っていますので、単純に教育問題や福祉問題という枠にこだわらない形で、関係するものが一つでもあればそれを橋渡ししていくのが行政の役割だと考えています。その考え方は今回の総合計画の中にも溶け込ませています。</p>
河野委員	<p>例えば、教育の問題では、学校に図書室がありますが、市内にも図書館があり、それぞれ分散しています。そのため、人の流れも分かれていますし、モノについても、小学校や中学校に図書室があり、市役所にも田原にも図書館があって、それぞれ全く別になっています。他市で行われているように、例えばT S U T A Y Aを入れて活性化する等、話題になるようなところを作ればもう少し人も集まりやすくなるのではないかと思います。単独にすると人は集まりませんが、関連するものができれば人も集まりますし、横のつながりも広がっていくのではないかと思います。</p>
事務局	<p>図書館に言及いただきましたが、例えば、平成27年度は市制施行45周年ということで、本市では、つなぐ、紡ぐをキーワードに進めており、その中では、全く関係のないものをつなぎながら大きくしていくような考えもあります。</p> <p>例えば、現在、総合公園を整備していますが、隣にある生駒市</p>

	<p>の生駒山麓公園との連携を模索しています。生駒山麓公園で指定管理をされているアウトドア専門業者のモンベルとの関係ができましたので、今年の夏は室池でカヌーやカヤックのイベントを開催するなど、関係しているところからさらにその先につなぐということをメインに、河野委員のご意見に即した形で進めていますし、今後も進めていく予定です。</p>
河野委員	<p>スポーツでは、屋外だけでなく、ボルダリングのような屋内のスポーツも流行っていて、オリンピック競技の候補にもなると言われています。そこで、そういうものを公共施設の壁に作って、インストラクターも入ってもらえることは考えられないでしょうか。モンベルにもおられると思いますし、普通のスポーツジムではなく、図書館の横にもそういうものを作れば、新しい遊び場ができると思います。そういう施設は考えられないでしょうか。</p>
事務局	<p>ご指摘の通り、生活様式や市民の志向も多様化しているので、今までは場所や項目さえ提供していれば済んでいたことが、様々な視点でのサービスを提供していくことが求められています。この点については、今回の総合計画の期間が2050年までとなっていますので、ニーズや時期に応じた形で進めていかなければならないと考えていますが、何ができるかということについては即答できない状況です。</p>
石関会長	<p>よろしいでしょうか。</p>
河野委員	<p>はい。</p>
石関会長	<p>それでは、続きまして、清川委員をお願いします。</p>
清川委員	<p>48ページの住民・事業者の取組みのところ、地域で住民同士の顔が見えるような関係をつくり出すという表現がありますが、もう少し分かりやすく表現した方が良いのではないかと思います。</p> <p>また、50ページは、子育て、子育て支援の充実という施策になっていますが、子育てがメインに出ている、根本的なところで若者の年収が低く、結婚をしたいという気持ちはあっても経済的な面から結婚できないという現状があると思います。結婚し</p>

<p>事務局</p>	<p>て、子どもが産まれて、子どもを育てるという従来の形式にしたくてもできないわけです。これは、四條畷市だけの問題ではなく、国の問題として気になる場所であり、色々なところで子育て支援や保育士を増やすなどしていただけることはありがたいのですが、それ以前のところを変えていくように声を上げていかなければ、このまま結婚する人が減って、子どもが少なくなって、35年先にはどうなっているのかと心配になります。良いことがたくさん書かれていて、このようになれば四條畷市も大阪府もこの国も良いと思うのですが、今の問題として若者の年収の低さを考えれば不安だというのが私の気持ちです。</p> <p>こういうものを作っていく中でこのような発言で申し訳ないのですが、私が思っていることとして言わせていただきました。</p> <p>それから、55ページに、各自でかかりつけ医をもとうとありますが、それはなかなか難しいと感じています。私の子どもの頃には近所に開業されている医者が出て、成人するまで風邪を引いたり、お腹が痛くなったりする度にその医者に診てもらっていたので、私はそれがかかりつけ医だと思っていますが、今、大きな病院に行くと、その都度担当医が変わってしまいます。大きな病院があるのはありがたいのですが、行く度に担当医が変わらなければかかりつけ医どころか、それ以前の問題なので、それをこれから見つけていくこと自体が難しいのではないかと思います。</p> <p>もう1つ、58ページの青少年の健全育成の市役所の取組みの3番に、郷土の文化や歴史の項目があり、学校教育に利活用することという表現がありますが、意味としては利用しながら活用していくことだと分かりますが、辞書で調べてもこの言葉が出てこなかったもので、この表現で良いのかどうか、お聞きしたいと思います。</p> <p>福祉の関係で、医療を含めて3点ご質問をいただきました。まず、地域福祉の問題で、住民同士の顔が見えるようにという表現が抽象的でわかりにくいというご意見ですが、これにつきましては、なわてみんなの福祉プランという地域福祉計画を別に策定しており、その中でそれぞれ取り組むべき役割を明記しています。市としては、活動の場所の提供や地域活動をしている方への補助金の交付等によって、住民に分かりやすい施策を推進していきたいと考えています。</p> <p>また、子育ての関係で、色々な支援、事業を行っていますが、</p>
------------	--

事務局	<p>指摘されたのは、年収が低いために結婚、出生に結びつかないという根本的な問題だと思います。子育て支援策については、子ども・子育て支援事業計画に基づいて推進しており、その中で、今年度については生活困窮者に対する支援を開始したところです。</p> <p>若者の収入増加策、景気の回復も根本的な問題ですが、施策としては、教育と福祉への支援を充実したいと考えています。</p> <p>かかりつけ医についてお答えします。かかりつけ医は身近な医師ということで、基本的に診療所の医師を想定しています。最近では少し変わってきていますが、基本的には昔ながらの診療所で、夜中に行っても起きて診てくれるようなイメージを想定しています。</p> <p>医師会の方も、かかりつけ医を作ろうという考え方で、積極的に動いているという状況です。別なところ書いている地域包括ケアシステムによって、地域全体で医療、介護についてどのような形でフォローしていくかということを検討する中で、医師会が中心となって進めていく部分が多々ありますので、そういう意味ではかかりつけ医の重要性は医師会も十分に認識されています。従って、流れとしては、医者だけでなく歯科医師や薬剤師も含め、かかりつけをもとうという考えです。</p>
事務局	<p>若者の就労について、子育てに不安を抱える若者がたくさんおられると思います。子育て支援、男女共同参画、家庭の支援、職場での働き方の問題等、色々な施策を考えているところですが、これから家庭を築こうとする若者が抱えている一番大きな不安は、家庭が維持できるのかということです。就労に関しては、現在はニートで職に就いていない方や、フリーターで将来に不安がある方についての支援について、国を含め、市も一体となって取り組んでいきたいと思っています。</p>
石関会長	<p>文字の問題はいかがでしょうか。</p>
事務局	<p>現在、小学校の3年生に対し、郷土史副読本を配布し、教育を展開しているところです。この言葉につきましては、学校教育の中で本市の歴史や偉人の文化資源を学ぶということだと思っていますので、文言につきましては調整させていただきたいと思っています。</p>

石関会長	清川委員、他にはよろしいですか。
清川委員	はい。ありがとうございました。
石関会長	では、田中(一)委員をお願いします。
田中(一)委員	<p>特に意見を言うほどでもありませんが、先ほどの河野委員のご意見は、私も以前から常々思っていたことです。私は今、民生委員をしています。民生活動という1つの組織活動の中にも他の団体と関連する業務やタイアップしなければならないことが多々あります。それについては、他の団体との関連を市役所の責任でまとめていくという回答がありましたが、私はそれぞれの団体の連絡会議のような組織を立ち上げてはどうかと思っています。</p> <p>例えば、民生委員が色々な支援をするためには、防災、消防とも関連することがあるので、各団体の連絡会議のような仕組みを立ち上げたらもっと円滑に回るのではないかと思います。</p>
石関会長	その点について、いかがでしょうか。
事務局	<p>貴重なご意見をいただきました。先ほど申し上げた、行政が真ん中に入って団体や個人や地域をつないでいくのは、言葉で言うのは簡単ですが、その仕組みはまだまだできていないので、今の意見はご提案として承り、今後の参考にさせていただきたいと思っています。</p> <p>少し戻らせていただいて、先ほど健康福祉部門と教育部門の方からお答えさせていただきましたが、清川委員のご発言からいきますと、どちらかという社会構造の変化にどのように対応していくか、それを行政としてどこまでできるかという不安や疑問、考え方を示してもらいたいというのが趣旨だったのではないかと考えています。ただ、これは市単独では進められない状況ですので、今後の施策を進める中で、国との取組みの中でプラスのところはどんどん引き出し、マイナスの部分は我々の取組みで補っていくということで進めていきたいと思っています。</p> <p>もう1点、利活用という言葉については、端的に言いますと利用と活用ということで、通常使われている言葉ですが、計画に載せて良いのかという質問だと思います。分かりやすくするために</p>

	は利用と活用と書くべきだと考えますので、現状としてお答えさせていただきます。
石関会長	田中(一)委員、よろしいでしょうか。
田中(一)委員	はい。
石関会長	それでは、中野委員をお願いします。
中野委員	<p>3点だけ質問したいと思います。まず、48ページの市役所の取組みの中に、貧困の連鎖を防止する取組みと書かれていますが、一般の市民生活を送っている人間にとって、現状の四條畷で貧困の連鎖を想像させるような事項が思い浮かびません。テレビの報道番組などでは、生活保護を受けずに云々という話が出てきますが、ここで言われる貧困の連鎖とは何を想定されているのでしょうか。</p> <p>それから、52ページの高齢者福祉の充実について、確かに現状の四條畷市においては、福祉についても介護についてもかなり充実した取組みがあるので、効果的に利用すれば厚い支援を受けることができます。ただ、色々なケースがあり、介護を受けている人が置かれている立場によって、同じような症状でも受けられるサービスが全然違うということもあります。</p> <p>もう1点、いつも高齢者福祉で抜けているのが、介護する人をどう支援するのかという問題です。介護される人をどう支援するのかという課題は常に出ていますが、介護をしている人をどう支援したら良いのかという視点がいつも抜けているので、可能ならば、そのあたりも含めて取り組んでいただければと思います。</p> <p>3点は、地域の活動をしていて思うのは、市の取組みとして市民体育祭などを実行し、地域の活性化に取り組んでいただいているのは事実ですが、それと裏腹に、各種スポーツ団体の活動を応援して団体に入ることを勧めるのは矛盾しているということです。スポーツ団体に入って活動する人は団体の活動を優先するので、市民体育祭に参加しなくなるのです。子どもが少ない地域で熱心にスポーツをすればするほど、市民の集まりに参加する機会を奪っていくという、全く矛盾したことが起こってしまいます。</p> <p>市は活発に活動する人がたくさん出てきて、市民体育祭にも出ていただくという絵を描いていると思いますが、現状は、1つの</p>

事務局	<p>スポーツにのめり込めばのめり込むほど、地域の活動には参加しないということが起こるわけです。我々が町内会の仕事をてつだっていると、そのような矛盾を感じます。特に、少子化で子どもが少なくなると、スポーツ団体に属さず残っているのは母親に抱かれているような幼い子どもしかいなくなるので、誰がリーダーシップをとるのかという問題が出てきます。このあたりについても、地域の活性化のためにどのようにスポーツ活動に協力していただくのかということを含め検討していただければと思います。</p> <p>貧困の連鎖については、一人親家庭など色々な状況で、収入が一定レベル以下の世帯があるとすると、その家庭の子どもは他の家庭と比べて十分な教育を受けられない可能性が出てきます。その結果、その子が成長しても十分な就労につけなくなって、貧困の連鎖が何代にもわたって起きてしまいます。これを我々は貧困の連鎖と考えています。</p> <p>また、高齢者の介護に関し、サービスは充実しているが、介護する側に対する配慮がないというご指摘をいただきましたが、これについては委員のご指摘の通りです。ただ、介護、養護等の支援に取組み、認知症に対する対策を立てることによって、家族や介護する方の負担を軽減しようという考えです。さらには、地域包括支援センターや市役所などの相談機能をより充実していくことも重要だと考えています。</p> <p>そして、今後は、医療と介護の連携を図りながら、国で地域包括ケアシステムという法令上の名称も出されていますので、介護される側、介護する側の包括的なケアシステムを考え、体制整備に努めていくという考えです。</p>
事務局	<p>スポーツ活動と地域活動という観点で、市民体育祭の開催にあたっては、各種団体、スポーツ団体の協力をいただき、実行委員会形式で運営しています。大きなイベントとして、四條畷市マラソン大会がありますが、そういうものに関しては、市だけではなく、日頃からスポーツに精通されている方の助言、アドバイスをいただきながら大会を運営しています。</p> <p>しかしながら、ご指摘のように、地域の中で個人的なスポーツ活動をしていて、そのスポーツの大会と市の大会が重なることがあって、市の大会に参加できないようなこともあろうかと思えます。それについては、できるだけスケジュール調整しながら、多</p>

<p>中野委員</p>	<p>くの方に参加していただき、また、多くの方がスタッフとしても参画できるような市民協働型の大会として今後も進めていきたいと思っています。</p> <p>介護の件にこだわって申し訳ありませんが、実際に利用できるシステムが色々あるのに、アナウンスが薄いと思います。どこに助けを求めたら良いかわからないというのが大部分なので、何とか活動の中で分かりやすくできないでしょうか。他人に助けを求めることがなかなかできないという人が多いので、そういう人が頼っていけるようなシステムができれば随分と助けられると思います。それほどお金をかけなくてもできると思うので、誰でも気軽に電話をかけられる、飛び込めるような、分かりやすい方法を考えていただければと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>先ほど地域包括ケアシステムという名称で説明させていただきましたが、今のご意見は、どのようなサービスがあるのか、どのようなサービスを受けられるかがはっきりわからない、また、実際にサービスがあっても利用に結びついていないというご指摘だと思います。</p> <p>地域福祉についてもご指摘をいただきましたが、民生委員の方々にご活躍いただいていますので、市としてもそういう制度の周知は徹底したいと思っています。民生委員等、地域で活躍しているの方々のご協力をいただきながら、地域包括支援センター等の周知に務め、必要な制度を活用していただけるようにしたいと思います。</p>
<p>田中(一)委員</p>	<p>民生委員の立場から述べさせていただきますが、今のご質問は、自分が助けてほしい時に、どこに頼むとどういう方法でサービスを受けられるかを知る術を教えてほしいという意味だと思います。</p> <p>それについては、民生委員は担当地域にどういう状況の方がおられるかということをおお体把握していますので、必要な人には重点的に、何かあったら言ってほしいと連絡先等を渡しています。</p> <p>例えば、65歳以上で1人住まいの方が、体調が悪いと電話をしてこられた場合は、我々が訪問しますし、とりあえず病院に行くように話もします。我々がどうしても対応できない時は、状況によって地域包括支援センターに連絡し、また、市役所の高齢福</p>

事務局	<p>社や生活福祉課などにもつないでいます。従って、当事者は民生委員を通じて概ね知っていただいていると感じています。</p> <p>中野委員と田中(一)委員は福祉の土台部分のことを言われていると理解しています。その前提として、誰でも、どこでも制度がわかるようなオペレーションシステムをまず構築しなければなりません。そして、先ほどからご意見をいただいている横のつながりによって、そのサービスを的確、迅速に提供できるという意味だと思います。それを担っていただいているのが、民生委員を代表とする地域の方々や社会福祉協議会であると考えていますが、その概念は地域福祉計画の中に謳われているので、それを実践、継続していくことで一定の枠組みはできるのではと考えています。</p>
中野委員	<p>福祉という言葉で入ると抵抗があります。助けてほしいというのは、生活を助けてほしいのではありません。生活は何とか頑張るけれども、生活を頑張るために、今、置かれている環境を改善しなければならない方がかなりおられます。要は、背伸びしているという状況です。そういう方の糸が切れると、不幸なことが起きるわけです。</p> <p>そこで、そういう追い詰められた気持ちではなく、もっと軽く自分の身の上を相談できる第一歩となるような窓口が必要ではないかと思います。つまり、必要な支援は生活保護のもっと前の段階であり、保護を受けに行く段階では遅いのです。あまり深い意味ではなくて、第一声を発する場を作っていただきたいということです。</p>
事務局	<p>今のご意見は、まさしく民生委員の方々に携わっていただいている部分だと考えています。民生委員の方々は、生活困窮者のみならず、生活全般、例えば日常の生活に支障をきたしているとか、こういうことがあれば生活が潤うという部分をフォローしてくれますので、そういう意味では、最初の窓口として活躍していただいています。本市の民生委員の方々は他市と比べても積極的な取組みを進めてくださっていると我々も自負しています。</p>
石関会長	<p>中野委員、よろしいでしょうか。</p>

中野委員	はい。
石関会長	それでは、林委員をお願いします。
林委員	<p>50ページの現状と課題の、子どもが自ら考え、主体的に生きる力を育てていくことができるよという文章について、主体的に生きる力という言葉が最近よく聞くのですが、どのようにすることなのかわからない大人も多いと思うので、それを子どもに任せるのはどうなのでしょう。これからの子どもにとって必要なことだとは思いますが、具体的に、主体的に動くとはどういうことなのか、子どもたちはあまり理解していないように思います。</p> <p>例えば、うちには中学生の子どもがいますが、学校生活の中でも自分で考え行動するよと言われるのですが、本人はどうしたら良いか全く分かっていません。それは、親がそういう躰をしていないからなのか、親である私たちもそのように育てられなかったからかと考えたりします。主体的という言葉について、もう少し具体的に、どういう大人になるのが理想なのか、子どもたちに示すことはできないのでしょうか。</p> <p>また、先ほどのご意見と重複するかもしれませんが、スポーツ団体の行事が色々と重なることがあり、特に、秋から冬にかけて、親は毎週忙しい思いをしています。市の行事に限らず、学校の運動会や日曜参観もあり、いつもバタバタしているので、もう少し落ち着いて過ごせないかと思っているのですが、そういう中で、市の行事もいくつか一緒にできることがあるのではないかと思います。</p> <p>例えば、四條畷市マラソンの5～6日後に子ども会の駅伝大会が開催されますが、駅伝大会は参加者が少なく困っています。それならば、四條畷市マラソンの中に子どもの駅伝も組み込めないかと以前から相談させてもらっていますが、なかなか実現できません。参加する側も大変な思いをしているので、それができれば助かるのではないかと思います。市民の集いや農業まつり等、総合センターでも毎週のように行事があるので、何かに行きたいと思っても別の催しと重複して行けません。もう少しそのあたりがスリムにならないかと思っています。</p> <p>次に、青少年健全育成の分野になるのかも知れませんが、子どもの遊び場所を確保していただきたいと思っています。特に、西部地</p>

<p>事務局</p>	<p>域には大きな公園がないので、子どもたちがのびのびと遊べる場所がありません。以前は校庭開放もされていたと思いますが、うまくいかなかったと聞いています。やはり学校ではなくて、楽しくボール遊びができる公園をなんとか確保できないものかと思えます。</p> <p>最近ではボール遊びだけではなく、子どもの声に対しても近所の方から苦情を受けることがあります。小学校で野球をしている子どもいますが、指導者に声を出せと言われて声を出すと、近所からうるさいと言われるのです。そのあたりは世代間の感覚の違いなのかも知れませんが、昔は許されていたことが、最近では騒音と捉えられ、子どもたちも委縮してしまうので、もっとのびのびと遊べる場所があれば良いと思います。</p> <p>特に、今夏は寝屋川で大変な事件があったので、子どもを外に出すことに、非常に緊張感を持つ家庭が多いと思います。もう少し穏やかに見守れるような環境、場所、さらに、見守ってくださる人がいればありがたいというのが親としての思いです。</p> <p>子どもが主体的にという表現について説明しますと、全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙の、難しいことでも失敗を恐れないで挑戦していますかとか、自分にはよいところがありますか、夢や希望を持っていますか、という問いに対し、良い結果が出ていないため、子どもたちの自己肯定感に課題があるのではないかと考えています。そこで、自分は他者から認められているという自己肯定感や自己有用感、あるいは自尊心を育てていくことが子どもの主体性につながるのではないかと考え、子どもたちが主体になって、自信を持って何かができるという取組みを学力づくりに活かすということを行っています。それが子どもの主体性や、自信を持って生きていくということにつながってほしいと思います。</p> <p>それから、イベントのスケジュールについては、ご指摘いただいたように、多くの方からご意見をいただいている部分でもあります。四條畷市マラソンは昨年から実施していますが、地域行事と重なっているということで、今年度は日をずらして地域行事と重ならないようにしました。しかしながら、他にも小学校の運動会や保育園、幼稚園の運動会など、様々なイベントがあるため、スケジュールを調整しているものの、ご不便をおかけしている部分もあるかと思えます。先ほど言われたように、事業を統合し、</p>
------------	--

	<p>中身を充実させていくという観点も必要だと思いますので、今後の検討課題と考えます。</p> <p>また、子どもの遊び場の確保についても、ご意見をいただくことがあります。お話を聞くと、西部地区にも公園は案外多く、遊ぶ場所はあるものの、ボール遊びが禁止になっているのが課題のようです。公園でボール遊びができないので近くの壁に当てて遊んでいると、近所の方からクレームが来るといった具合に子どもたちがつらい思いをしているのが事実だと思います。現在、くすのき小学校と岡部小学校で学校の校庭開放を試行実施しており、この結果を含め、今後も継続して検討していきたいと思っています。</p>
事務局	<p>主体的に生きる力については、子どもの権利に関連した項目で、現在、本市で策定しようとしている子ども基本条例にも関連しています。子どもが主体的に考え、行動し、かつ、他人の人権を尊重し、育っていくことが子ども基本条例の理念です。それをここで謳っているわけです。また、それは子どもにだけ求めるのではなく、その環境を大人、地域、施設等の事業者が一体となって創り、子どもの権利を保障していこうという概念です。</p>
石関会長	<p>林委員、よろしいでしょうか。</p>
林委員	<p>はい。ありがとうございました。</p>
石関会長	<p>それでは、次に梶井委員にお願いいたします。</p>
梶井委員	<p>54ページの現状と課題に、食生活の欧米化やライフスタイルの変化等から若年層からの生活習慣の乱れが課題となっていますとありますが、この乱れというのは大きな問題だと思います。これに対し、市役所の取組みとして、健康意識の向上及び住民が自主的に健康づくりに取り組めるよう、関係機関や健康づくりグループと連携し、様々な事業の展開により、市域全体にその機運が高まるよう努めますとなっていますが、健康グループとどういう連携をしながら食の乱れを少なくしていくかということが課題です。</p> <p>今は、どこにでも多くの美味しい食べものがあり、子どもたちの食がかなり偏ってきているのではないかと思います。レンジで</p>

	<p>温めるだけの簡単な食べ物が多くなっている中で、多くの母親たちがパートタイマーなどで働きに出ていることも原因の1つと思います。健康づくりグループとの連携とは、色々なスポーツ、山歩き、体操などの健康づくりの取組みによって多少なりとも食の乱れを少なくできるということでしょうか。</p>
事務局	<p>本市では、子どもの頃からの食育ということで、栄養士会等との連携のもと、食に対する関心を持たせて、正しく食べるという親子への働きかけを行っています。ご指摘の通り、欧米化による食生活の乱れや朝食がなかなか取れないといったようなデータもありますが、そのような状況にあっても、食事をきちんと取っていただく、子どもには正しい食事をさせるという形での意識づけを今後もやっていきたいと考えています。</p>
石関会長	<p>よろしいでしょうか。</p>
梶井委員	<p>はい。</p>
石関会長	<p>それでは、田中(好)委員にお願いします。</p>
田中(好)委員	<p>先ほど他の委員の方からも、若い方の賃金の問題や、それに関連して貧困の連鎖のお話が出ていたと思います。やはり雇用は非常に大きなキーワードであると大阪府の方も考えていますが、今検討していただいている総合計画の中ではそこが少し薄いのではないかという印象を受けています。事務局の説明の中で、行政としてどういうことができるかはこれからという説明があり、そのあたりは大阪府も同じような状況ですが、やはりキーワードとして雇用は大事なものではないかと思っています。</p> <p>これは先ほどもご発言がありましたように、貧困の問題、離婚率の高さ、持ちたい子どもの数に対して実際に子どもを持っている数にギャップがあるという問題に対する原因でもあるでしょうし、また、総合計画の中で重要なパーツとして産業振興が挙がっていますが、産業振興の部分と雇用の部分は非常に密接に関連しているところです。</p> <p>11月27日に厚生労働省から就業者数予測の数値が発表され、新聞等でも話題になっていますが、数字をご紹介しますと、2010年と比較して2030年の就業者数は経済成長や女性、</p>

	<p>若者の労働参加が適切に進まない場合は、全国平均で13%程度、数にすると840万人ほどに減少してしまう予測が発表されています。一方で、2%程度の経済成長を維持しながら、女性や若者の労働参加が進めば、減少率は3.3%程度に抑えられるのではないかと予測です。地域の産業振興という面でも、あるいは子育てや人口の維持という面でも就労者の確保は表裏一体の部分がありますし、まち・ひと・しごと創生戦略もありますので、市の中でも色々な場面で議論されていると思いますが、総合計画においても是非この機会に活発に議論をしていただきたいと思います。国からも新たな施策が出てくると思いますし、大阪府も新たな施策を作っていくこととなりますので、そのあたりと連携していただきながら、雇用、就労者支援もご検討していただければということです。</p>
事務局	<p>貧困の連鎖と雇用という切り口で意見をいただきました。総合計画の38ページ 賑わいと魅力を創造し、まちを元気にする活力づくりの施策2 地域経済を支える産業の活性化については、まさしく田中委員のご指摘のとおりで、産業振興の中の市役所の取組みの5番に求職者に対する職の斡旋や就労支援をしていくことを記載していますが、様々な社会背景や現況を示していただきましたので、この部分はかなり薄いと感じます。従って、今後については再度検討させていただきたいと思います。</p> <p>また、雇用の問題に関連して、本当は結婚して子どもがほしいけれども、収入の関係でできないという話については、本年10月に策定した総合戦略の策定に向けたアンケート調査の中で、本市においても、ほしい子どもの数は2人ないし3人ですが、実際には1人あるいは作らないという回答が出ており、その背景には経済的な問題があることが明らかになっています。これを改善していくためにも、就労の観点、さらには子育てをしやすい環境整備の2軸をもとに進めていくべきだと考えています。</p>
石関会長	<p>次は、専門的な立場から明神副会長にお願いします。</p>
明神副会長	<p>皆さんが言われたように、計画は20年、25年、50年後という話になりますが、それだけではなく、現在の市民一人ひとりがどのように日々の生活に満足しているかということと、その優先度の両輪の分析を市民に分かりやすく、具体的に提示されなけ</p>

ればならないと思います。

確かに、将来像としての総合計画は必要ですが、実際に直面している市民一人ひとりの満足度をきちんと提示することも重要です。これは四條畷市だけの問題ではなく、今、市町村が一斉にこのような計画を作っておられます。どこも市民とかけ離れた20年後とか50年後のイメージが出されていますので、それも大事ですが、そこに行くまでの市民一人ひとりの生活も大事にしなければなりません。

特に子育てに関しては、産みやすいとか、3人欲しいという絵に描いた餅をいくら掲げても、今の制度そのものが子どもを産みにくい制度になっているので、欧米のように、産むことによって税対策ができる等、潤っていく制度に変えていかなければならないと思います。いくら理想を言っても仕方がないと思います。

そういう意味では、今、何人かの委員さんが言われたことも含めて、日々の生活の中で市民がどれだけ満足しているのかということと、それをどのように優先していくのかということ、その両輪の掛け合いをもう少し丁寧に提示されることで、概論がもう少し分かりやすくなるのではないかと思います。

具体的には、先ほどの主体的という言葉もそうですが、子どもの主体性というのは、学校教育も含めてかなり前から言われています。それにも関わらず、保護者である方が、主体的という言葉のイメージができにくいということは、それだけ市民の中に定着していないということになります。そういう現実も考えますと、やはり保護者一人ひとり、もしくは一人ひとりの市民が納得できるような提示の仕方が求められます。実際にどうすることが一番適切なかが具体になっていないと、概論的な話で終わってしまうような気がするので、もう少し満足度や優先度について分かりやすく提示することが必要です。

私は常に、日々の生活に満足していないのに、何年後の話をして仕方がないと言っており、そういうことを言うと身も蓋もないのですが、もう少しそのあたりを具体化していくことが必要だと考えています。それは先ほどから民生委員の方も言われていましたし、色々な方が提案されていると思いますが、そこを丁寧にされていくことが大事だと思います。恐らく分析はされていると思いますが、市民一人ひとり、地域の人たち一人ひとりには見えにくいというのが現状だと思います。これはどうしろということではなく、あくまで私の考えです。

	<p>りをめざし、予算の範囲内でできることをしているところがたくさんあるので、四條畷市も先進的な取り組みをしていくことが、府内でも先進的な側面として映っていくのではないかと期待しています。そういうことが良い意味で学びになればと思い、意見をさせていただきました。</p>
石関会長	<p>それでは、大川委員にお願いします。</p>
大川委員	<p>意見として出したいのは、雇用問題と同時に、子どもを産めないという環境の問題です。そこで一番大事だと思うのが、就労形態の問題です。先日、厚生労働省が就労実態を調査した結果が朝日新聞に掲載されましたが、40%が非正規雇用者というデータが出ています。つまり、企業に勤めていると言っても派遣社員であって、その労働形態の中の賃金格差が非常に大きく、結婚もできないし、結婚しても子どもを産めないという状況があります。もちろん、行政が雇用形態をどうするということは言えませんが、これから先の大きな課題なので、やはり、行政もそれに取り組んでいく等の姿勢が必要かと思います。特に、非正規雇用の問題は大事な問題です。給料が安いということは、子どもを産めない環境だということです。</p> <p>また、保育所の待機児童の解消についても、保育士を雇用しようにも給料が安いから就労者がいないという実態があります。介護士も同様です。介護保険制度が始まってから色々な組織ができましたが、介護士は給料が安いので、それでは食べていけないという問題が出ています。従って、そういう問題を解決していくために、行政にも努力することが求められていると思います。行政がその問題を直接解決することはできませんが、解決する努力をするという位置づけを今度の総合計画の中でしっかりとすべきです。</p> <p>それと併せて、生活困窮の問題で、48ページに生活保護世帯等の生活困窮者に対し、ケースワーカーなどの専門職が中心となって就労と自立の支援を行いますと書かれていますが、生活困窮者や生活保護を受けている方に対する取り組みは就労だけではありません。ここには就労のことしか書いていないので、心のケア、市役所に相談に行けば安心できる、何とか頑張ろうという気持ちになれるような、指導のあり方も問われているのではないかと思います。</p>

	<p>我々も仕事で生活保護の相談をたくさん受けます。四條畷市ではありませんが、生活保護を受けている方がケースワーカーから嫌なことを言われて自殺未遂をした事例がありました。こうなると、生活保護を担当しているケースワーカーの心のケアもしなければなりません。就労に関し、きつい言い方をする人がいます。生活保護を受けている方は非常に弱い立場なのに、それを無視したやり方で指導する方がいるのです。</p> <p>そういう意味では今回の総合計画の中にも、心のケアを入れてほしいと思います。そして、もう少し温かさが必要だと思います。温かさが欠けているような感じがしますので、もう少し温かい表現が、福祉の分野や教育の分野で必要だと思います。是非、そういう考えで進めていただければと思います。</p> <p>事務局</p> <p>委員からご指摘がありました、保育士の処遇の改善の問題については、介護士もそうですが、国の方で処遇の改善に向けての仕組みが作られました。ただし、それだけでは保育士を確保するのは難しいという状況が続いているので、国に対し要望を続けていくことが市の役割ではないかと考えています。</p> <p>また、生活困窮者の自立という観点では、我々の概念からすると、就労に結び付けていくのが基本的な考えですが、それ以外にも複合的な要素を抱えておられる場合が多いので、総合的な支援をめざしていくこととなります。そういう意味で、就労だけではなく、心のケアも実施しているところです。ケースワーカーについても、適正な業務を進めるうえで受給者に対し助言をさせていただいていますが、その中では、受給者に寄り添ったケースワークを心がけていますので、本市では委員が指摘されたような重篤なケースは起きていません。構造上の問題で色々ご指摘をいただきましたが、日常業務の中では温かい心をもって業務に携わっていることをご理解いただきたいと思います。</p> <p>大川委員</p> <p>ケースワーカーの中には、そういう指導をしてはダメだと思うようなケースもあります。そこをもっと真摯に受け止めて、そういうことのないようにきちんと進めていくべきであり、市役所に行けば安心でき、生きていこうと思える環境づくりが大事だと思います。一つひとつを言えばきりが無いのですが、それを総合計画に活かしていただきたいと思います。</p>
--	---

石関会長	<p>続いて、小原委員にお願いします。</p>
小原委員	<p>先ほど副会長からご意見がありましたが、今回の総合計画の策定は、将来の四條畷の姿を描く夢の部分と、直面する様々な課題の部分の両方を収めながら作っていくという、難しい作業だと思います。</p> <p>先進事例として、岡山のある市で、市外から新しく来て、新築の家を建てたら100万円提供しますという定住促進の施策を打ち出しているところがあります。計画の中にもあったかも知れませんが、そのように、四條畷市の良さをアピールして、来てもらうための定住促進策を考えることがこれからは非常に大事になると思います。</p> <p>その他にも、様々な先進事例があります。これは変わった視点ですが、東京都の渋谷区、世田谷区に続いて、宝塚市が同性婚のパートナーシップ制度を認めました。私も2年ほど前、人権政策課の方にL B G Tについて調べてもらうようお願いしたことがあります。できればこれも総合計画の中に盛り込んでおいてほしいと思います。具体的な言葉がなくても、将来像として入れていただければと思います。</p> <p>それから、遊び場については、私も10年前から言い続けてきました。子どもがボール遊びのできる場所がないということで、一昨日もある市民から要望されましたが、色々な人から様々な機会に言われていますので、ぜひともこの中に盛り込んでいただきたいと思います。それと、校庭開放です。</p> <p>また、子どもたちが優れた一流の文化芸術に触れられる機会を作っていくという文言も入れてほしいと思います。青少年の健全育成か教育の充実かどちらに入るのかわかりませんが、今はそういう文言が入っていないので、この中で是非とも取り上げていただきたいと思います。</p> <p>そして、先ほどから、貧困の連鎖という言葉が出ていますが、これは私も以前に何回か一般質問で取り上げました。貧困の連鎖から生じる学力の格差にどう対処するかという問題で、今、健康福祉部局と教育委員会が取り組んでおられます。従って、56ページの教育の充実のところ、是非とも、貧困による学力の格差という文言と、福祉部門と教育委員会が連携しながら解決を図っていくという文言を入れていただきたいと思います。</p>

事務局	<p>まずは、人口流入に向けた定住施策についてご提案をいただきました。これについては先進事例等を参考にしながら積極的に進めることとしていますので、個別的なご意見として承ります。</p> <p>また、文化芸術の分野につきましては、62ページに歴史、文化の保存と継承という観点から、分野別計画として文化芸術振興計画を掲載し、その中で、子どもたちが文化芸術、日本の伝統文化等に触れられるような機会を設けると謳っていますので、一定網羅しているのではないかと考えています。</p> <p>また、貧困の連鎖については、複数の委員の方からご意見をいただいております、平成27年度から本格的に進めていますので、その中の具体策として、ここに書きこむかどうかは別として、取組みを進めながら改善を重ねていく考えです。</p> <p>同性婚については、総合計画として具体的に書くのはどうかという議論もありますので、先ほど申し上げた人口の定住促進策の1つの提案として賜りたいと思います。</p>
事務局	<p>同性婚については、43ページの人権尊重の社会形成の中に、色々な人権問題が列挙されており、そこに含めて考えていただければと思います。具体的には、現状と課題の3番に、現在起きている問題として、同和問題、女性、子ども、障がいのある人及び高齢者等の…と書かれていますが、このようなすべての人権課題に対する教育の推進と意識の高揚を図る必要があると捉えています。色々な人権問題がある中で、同性婚やLGBTの問題についても考えていきます。</p>
石関会長	<p>それでは、藤本委員にお願いします。</p>
藤本委員	<p>皆様も述べられた点ですが、私は根本的なところが薄いように感じます。総計の案ですので、大きく検討しておられるのは分かりますが、身近な行政ということですので、もう少し分かりやすい、身近な取組みを組み込んでいただきたいと思います。</p> <p>例えば、48ページ 地域福祉の醸成と自立支援の充実の、住民、事業者の取組みに、地域で住民同士の顔が見えるような関係をつくりますと書かれていますが、本当に近所の方と接して付き合いをしていこうと思われている方は、既にそうされていると思います。そうではないから隣の方がどういう方かわからないという事態が起きているのです。そのような中で核家族化が進み、老</p>

老介護の家庭が増えて、ご近所の顔も知らないという方が買い物に行くのにバス停まで15分も歩かなければならない、荷物を持って帰れないという状態で、誰かに相談したくても近所にはなかなか言えないというケースがたくさん出ています。従って、行政が、地域でサポートし合えるような体制づくりをして援助していくべきではないかと感じました。

次に、子育て支援について、支援の対象には、幼児や小さな子どもたちをイメージされると思いますが、小学校の低学年の子どもたちも含まれます。今の時代はスーパーも21時頃まで営業しているので、そこでパートとして働く母親たちの帰りも遅くなります。そういうニーズに合わせた取組みも落とし込んでいただきたいです。

最後に、61ページでは高齢化や社会情勢の変化に伴い、生涯スポーツが必要だという趣旨が書かれています。それが現状と課題であり、対する取組みとして、市民総合体育館などのスポーツ施設の維持補修が挙げられています。しかし、高齢化社会の情勢に伴った形で言えば、自宅から歩いて行ける身近な公園が基本ではないかと思しますので、以前、議会の方でも発言させていただきましたが、子どもたちの遊具の中に、高齢者向けの運動機能を高める健康遊具を置けば、歩いて5分でいける公園で介護予防のための運動ができるようになるのではないかと思います。身近な公園にそのような器具があれば、スポーツジムやサンアリーナまで行かなくても良いわけですし、そのような施設まで行かなければならないとなると、毎日継続して行うようなスポーツは、特に高齢の方にはできないと思しますので、身近な行政として、市民の視点に立った取組みを組み込んでいただきたいというのが要望です。

事務局

今のご意見は、計画の作り込み方にも関わる問題ですが、前回もご説明したとおり、計画の策定経過として、将来像やめざすべき姿を子どもたちに作っていただき、行政及び住民、事業者の取組みを市役所の若年層職員と市民の方々のワークショップで検討してきた経緯があるので、再考するのは難しいと考えています。

また、具体例を数多くいただきましたが、施策体系として分野別計画を基本計画に位置付けると謳っており、その中で具体策を一定明確化しています。身近な行政を否定するのではなく、より

<p>藤本委員</p>	<p>具体的な内容については分野別計画の中に示していくという考えです。</p> <p>なお、生涯スポーツの関係についてもご議論いただいておりますが、市民総合体育館は一例として挙げているにすぎません。その中では、既存施設の適切な維持管理についても謳っており、地域に密着した施設も対象となることから、藤本委員が言われた内容も一定網羅しているのではないかと考えています。</p> <p>是非、具体策の方に入れていただければと思います。よろしくお願いします。</p>
<p>石関会長</p>	<p>それでは、森本委員にお願いします。</p>
<p>森本委員</p>	<p>本日は皆様も回数を重ねられたからだと思いますが、ご意見も切り口も分かりやすく、非常に前に進んでいると思います。行政側も謙虚にお答えいただいていると感じており、ありがたいことだと思います。</p> <p>先ほどの副会長の話にもありましたし、私も前回お願いしたのですが、総合計画は総論ですから、個別の施策は別にするというのは理解しながらも、やはりシステムの個別施策と総論がどのようにリンクしているのか、具体的に見えるような進め方をしていただきたいと思います。そうでなければ、結局はこれを作ることだけが目的化してしまっていて、何にもならないと思います。</p> <p>もう1つは、理念として総花的なものを作ると、日本全国どこでも金太郎飴のような計画になるので、むしろ四條畷としては、こういうまちをつくっていくという強いメッセージを示していくことができるのではないかと、小さいまちだからこそ、余計に温かい方向性が出せるのではないかと感じています。</p> <p>各論については、2、3ご提案があります。</p> <p>まず、介護については、私たちが考えられないほど世の中は変わっています。私は今、89歳の父と85歳の母を介護していますが、介護している人への支援が非常に大事だと思います。身をもって体験しているのは、介護は理屈ではないということです。子どもでも辛いことがあります。それに対して、何が一番良いかというと、少しでも解放してあげることです。要介護や要支援が進むとデイサービスもありますが、意外と軽度の人でも介護は大変です。そこで、外国では既に実施されていますが、若い時から</p>

介護等のボランティアをポイント化して、そのポイントを将来自分の介護に使うという、ボランティアをコスト化する仕組みも必要ではないかと思います。それにより、労働力として若い人が積極的に介護に参加するという社会構造に変えていくことが可能になります。介護は介護保険制度として行われていると思いますが、市としても、そういう方向性を考えるのは良いことではないかと思います。

以前、介護マイレージという仕組みを提案させていただきましたが、普段から健康に気を使っている人と、そうでない人が同じ公共サービスを受けるのには違和感があります。しっかりと自分の体をコントロールしている人ほど正当な扱いを受けるべきです。自暴自棄で酒ばかり飲んでいる人を人間として大事に扱うのは良いですが、やはりノーマルな社会とすれば、努力している人が報われるような世の中になるべきです。介護の問題にしても、例えば、介護保険を20年間使わなければ商品券をプレゼントする等の仕組みを作ると、また頑張って公園での体操も積極的に参加しようという人が出てくると思います。そのように、介護で不幸が起こらないように、日本で一番そういうことに取り組んでいるまちにしていきたいと思います。これは自分の意見です。

また、教育に関し、ここに書いていることで問題があると思うのは、ICT教育です。OECDの加盟国の中でICT教育を進めた国ほど学力が下がっているという統計が出ています。安易にそういうものを使うことには懸念があるので、総合計画の中には書かない方が良くと思います。現にそういう統計的な結果が出ているものを市の総合計画には書くべきではないと私は思います。

それから、市民体育祭の話も出ましたが、私は市に対して、ボランティアの位置づけをもっと大事にしていきたいと思っています。あれだけ皆に協力してほしいと人を集めても、おにぎりの1つも出ません。ボランティアは無償ではなく、結果的に何らか有償化されるべきであって、現金ではないにしてもその行為を尊重することが大切であり、それによってボランティアに参加しようという意識が高まるのではないかと思います。従って、もう少しボランティアの人を大事にしていきたいと思っています。

最後になりますが、世の中が大きく変わって、特にスマートフォンの問題については、子どもがスマートフォンで長い時間ゲームをすると、脳の発達が遅れることがわかっています。睡眠時間

	<p>も短くなりますし、脳の発達が遅れると、判断力など生きていく能力自体がなくなるので、これは行政もしっかりと親の義務としてそういうものをあまりさせないように取り組むべきだと思います。</p> <p>今の時代は何でも学校や行政に求めようとしますが、それは大きな間違いで、親が家庭で躾をするのが当たり前で、生きていく術は家で教えるべきなのです。親が責任をもって行うことと、行政のすべきことを明確に区分したうえで、何にでも良い顔をするのではなく、行政として言うべきことは言ってほしいと思います。</p> <p>まず、総論的なご意見として、藤本委員とも相通ずるところがあると思いますが、総合計画と分野計画の施策体系の明確化及びつながりの可視化が重要と承りました。メリハリのある総合計画については、先ほど申し上げた分野別計画の中でメリハリがつくと考えています。</p> <p>また、個別の介護の問題については、現在、健康の分野やエネルギー政策の分野でマイルーজ的要素を用いた事業を進めていますので、その発展型として考え、これらの経過を見定めてまいります。</p> <p>学校のICTや保護者の養育力についてはご意見として賜り、ボランティアについては、様々な形態や状況があることから一概には考えることができないので、これもご意見としていただいております。</p>
事務局	<p>まず、総論的なご意見として、藤本委員とも相通ずるところがあると思いますが、総合計画と分野計画の施策体系の明確化及びつながりの可視化が重要と承りました。メリハリのある総合計画については、先ほど申し上げた分野別計画の中でメリハリがつくと考えています。</p> <p>また、個別の介護の問題については、現在、健康の分野やエネルギー政策の分野でマイルーজ的要素を用いた事業を進めていますので、その発展型として考え、これらの経過を見定めてまいります。</p> <p>学校のICTや保護者の養育力についてはご意見として賜り、ボランティアについては、様々な形態や状況があることから一概には考えることができないので、これもご意見としていただいております。</p>
森本委員	<p>最後に1つだけ、皆さんも思っているのではないかと思います。健康保険で財政に負担を与えているのは整骨院ではないかと思えます。先ごろも東京等で不正事件が起りましたが、接骨院は本来、骨折や脱臼等の治療をするべきところですが、それが、今やマッサージ店のようになっています。挙句の果てには、家まで迎えに来るところもあります。それが皆さんの保険料から払われていることは間違いないので、レセプトの点検や現場への立入り検査をされてはどうかということ、最後をお願いしておきます。</p>
石関会長	<p>ありがとうございます。それでは、渡辺委員お願いします。</p>

渡辺委員

皆さんが提案されたことはもっともな内容ばかりだと思いませんので、是非、反映していただきたいと思えます。

その中でも、貧困の連鎖の問題がありました。また、同様の主旨になると思えますが、年収が低い人の未婚化、晩婚化の話もありました。事務局からは、社会構造の変化にどう対応していくかが課題だという回答がありましたが、私はこの問題に市がどう関われるかを見定めることが大切だと思っています。

つまり、四條畷市が経済に直接関わることは困難で、この問題を市が改善するのは非常に難しいことですが、市が関われるとすれば、年収が低い等、貧困の連鎖に巻き込まれないようにするためにはどうすれば良いかという視点を持つことだと思えます。

色々な統計を見ますと、例えば、所得については、ここ20年間で、特に若い年齢層の所得が段階的に減少しているという数字が出ています。ところが、実は、高等教育を受けた人の所得はあまり減っていないで、先ほどまで読んでいた本には3%くらいしか減少していない、人によっては増えているという統計が出ていました。ここで大事なことは、市が行うべきことは、皆様が提言された問題の解決の一助になるものとして、教育に力を入れるべきではないかということです。これは議会でも、何度も繰り返し言っていることです。

また、最近出された新聞記事では、OECDの統計で日本の教育にけるお金が非常に少ないという内容が出ていました。ただ日本は、国は出していないけれども、個人が負担しているので、日本全体として教育にかけているお金は先進国でもトップクラスということです。

ここに大きな問題があります。国がお金を出さずに個人が出しているということは、所得格差が教育格差を生む原因になるということなのです。従って、市はもっと教育に力を入れて、個人でお金を出せる人と出せない人の差を無くし、貧困の連鎖や年収が低くて未婚化、晩婚化するという事態を防がなければならないと思えます。

そこで、市が少ない財政の中で、どうやって教育に関わっていくかということが大事になります。これについては、今、教育も経済的な分析が進んでいますので、6月議会と9月議会でも話をさせていただきましたが、教育のどのタイミングで投資をするかということが重要になります。例えば、中学受験と高校受験が勉強のメインイベントのようになっていますが、実は0歳から20

歳を全体的な教育期間だとすると、学力の差が生じるのは前半であり、前半に教育投資をすればするほど学力が向上するというデータが出ています。それならば、四條畷は幼児教育や小学生の教育に力を入れていくと、少ない投資で大きな効果を得ることができるのではないかと思います。そういう視点を是非入れていただきたいと思います。

それに関連して、先ほど河野委員から図書館を充実してほしいというお話がありましたが、図書を読むこと＝学力の向上につながるという客観的データも出ていますので、より積極的に関わっていただきたい分野です。学生と接すると、勉強する場所が少ないと言われます。総合センターの中にある図書室で勉強したら良いのではないかと言うと、ほとんど満席で勉強する場がないと返ってきます。守口市にはホール等があると聞きますが、それなら小学校の図書室を開放して、地域の住民が学べる場にしていただくと学生に限らず、大人も含めて効果があると思います。そういう学習拠点をつくるのが、先ほどの問題もそうですし、学生のニーズに応えるという意味でも1つの答えになると思います。

従って、57ページの学校図書館の活性化に取り組みますという文言を、私が考えた言葉ですが、小中学校の図書室を地域学習の拠点の場とするというような文言にすると、総合計画として大きな意味での解決の方向に向かっていくのではないかと思います。

また、先ほど貧困の問題を総合計画とオーバーラップしてほしいという意見がありましたが、これに関しては私も全く同じ意見です。それで、私の考えを入れるならば、貧困の連鎖を断ち切るために、教育を充実させるというような文言にしてはどうかと思います。それによって、色々なものがリンクされ、より効果的な総合計画になるのではないかと思います。

事務局

数多くのご意見をいただいています。まず、貧困の連鎖については、複数の委員からご意見をいただいていますので、総括しますと、私が当初に申し上げた社会構造の問題もありますが、貧困の連鎖に着眼した行政にできる側面的な取組みを模索して、実施していくということで承りました。

また、教育については、教育を起点としたまちづくりこそが貧困の連鎖やまちの魅力創出など様々な効果を発揮するという観点でご意見をいただいたと考えます。これについては、本市では

	<p>教育を大きな柱に据えていますので、具体策として進めていくという考えです。それは保育所、幼稚園、小学校、中学校、生涯学習に通ずるまでの範囲で現在考えています。図書館の拠点化についても、学びという観点からは理解するところなので、総合計画に謳い込むかどうかについては持ち帰らせていただきたいと思いますと考えています。</p>
石関会長	<p>渡辺委員、よろしいですか。</p>
渡辺委員	<p>はい。</p>
石関会長	<p>委員の皆様、ご意見、ご提言をありがとうございました。これまでの意見については、文言として反映如何に関わらず、今後の行政運営や施策展開の際に大いに参考にしていただけるものと期待していますので、よろしく申し上げます。</p>
石関会長	<p>(2) その他 次に、次第2 その他として、次回審議会での答申のまとめ方について、委員の皆様にご審議いただきたいと思います。これにつきましては、ご意見のある方から発言いただければと思います。皆様いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>これまで4回にわたりまして皆様からご意見をいただいておりますので、最終の答申にはこれまでの議事録を添えて、すべての意見を含めた内容で提出していただきたいと思います。</p> <p>その中で、鑑にまとめる内容について、4回にわたってご議論いただいた要旨を簡単に集約しましたので、発言させていただいてもよろしいでしょうか。</p> <p>(会長の承諾あり)</p> <p>答申内容は、大きく総論的な意見と各論的な意見の2つに分けたいと考えています。</p> <p>まず、総論的な意見について5点ほど考えています。</p> <p>1点が、総合計画はまちづくりの最上位計画であり、本市のあるべき姿と進むべき方向性を示す指針との認識に立ち、市民にわかりやすい内容とすべく表現を工夫すること。また、取組み内容については、あらゆる方策を用いての可視化に努めること。これは2回、3回でご議論いただいた内容です。</p>

2点が、計画の推進にあたっては、人口ビジョンに掲げる本市の人口動態を的確に見極めながら、時宜を得た施策、事業を構築、実施すること。

3点が、人口ビジョンの詳細を表す年齢構成をさらに分析のうえ、将来を見極めながら、市民の安心、安全な暮らしと福祉の増進を図ること。

4点が、関西文化学術研究都市の構成市として、教育を中心としたまちづくりを進め、特に子どもたちへの学びに着眼した施策、事業を推進すること。

最後に、総合計画策定後における実施計画の取りまとめとその実践に関しては、市民参画を経た枠組みで臨むこと。

この5点が大きな意見だと理解しております。

また、各論的な意見としましては、本日も含めて24点にまとめました。

まず、基本計画 分野第2章「賑わいと魅力を創造し、まちを元気にする活力づくり」に関し、近居を全面に打ち出すのであれば、今後の方針や方向性を整理すること。

基本計画に掲げる枠組みについて、方向性に問題はないが、個別の事業を実施する際、特に市民生活や子育て施策に関しては、周知、啓発に努めること。

まちのイメージアップに繋がる景観形成については、昨今、問題となっている空き家対策はもとより、自然環境の保全を含め取り組むこと。

ペットの飼育に関し、共生の考え方に基づく具体策を講じること。

協働のまちづくり具現化をめざし、団体間の協働については行政が橋渡しを行うなどの枠組みを構築すること。

住民自治を確立すべく、参画、協働の機会を適宜設けること。

男女共同参画社会の実現に向け、まずは市役所で女性幹部職員の登用を進めること。

農業振興の一助として、様々な場面での地場産品使用はもとより、農業従事者の育成を強化すること。

雇用問題については、地方創生を前提に、新たな制度設計や社会背景を踏まえた取り組みを行うこと。

市民の円滑な交通を維持するため、コミュニティバスの運行に留まらない施策を検討すること。

本市に育つ子どもたちの情操を養うため、公共施設の集約に併

<p>石関会長</p>	<p>せて気軽に遊べる公園整備を計画に含めること。</p> <p>情報化の進展に伴う負の側面への対処、対応は、地域ぐるみで進めること。</p> <p>人権尊重に向けた取組みについては、市民一人ひとりの命を大切にす意識醸成を基盤とすること。</p> <p>防災対策については、住宅の耐震化などのハード面と、自主防災、災害時要配慮者への支援体制といったソフト面の双方から働きかけること。また、そのための内外への情報発信は柔軟に対応すること。</p> <p>防犯対策については、事故の未然防止とやむなく発生した際の事実確認を併せ持つ対策を講じること。</p> <p>福祉は受益者だけでなく、提供者側への支援等を併せて検討すること。</p> <p>福祉全般については、単に事業を進めるだけでなく、事業効果を補完していく受け皿的な仕組みを行政、地域協働で築くこと。</p> <p>住民の定住化を果たすべく子育て世帯に着眼した画一的でない取組みを設けること。</p> <p>子育て支援については、産み育てやすい環境という成果を求め、施策、事業を展開していくこと。</p> <p>貧困の連鎖に着眼した側面的、横断的な取組みを検討し、具現化していくこと。</p> <p>時代を担う子どもたちの育ちを応援するため、年齢階層ごと適宜の取組みを枠組むこと。</p> <p>近々に実施していく予定の学校再編整備には、引き続きの住民合意に向けた努力を重ねること。</p> <p>計画推進にあたっての効果を最大限に発揮するとの考えのもと、類似事業の統合、整理を進めること。</p> <p>人口流入及び定住施策については、先進事例等を参考に積極的な取組みを取り入れること。</p> <p>以上です。</p> <p>これらを表に付け、すべての議事録を添付して答申としたいと思っています。今お示しさせていただいた内容については、会長、副会長で校正していただければと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>今の事務局の意見に関して、ご意見等がありますでしょうか。 (意見等、なし)</p>
-------------	---

石関会長	<p>次が最終の審議会となりますので、次回までに今回の意見も含め、事務局と会長、副会長で答申案を作成し、最終の審議会の皆様とその内容について協議を行いたいと思います。</p> <p>また、次回の審議会の基本構想のまちの将来像に関するご意見をいただくことになっておりましたので、それぞれご意見を持ち寄っていただきますよう、よろしく願いいたします。</p>
森本委員	<p>前にありました、共だってという表現はどうなりましたか。</p>
石関会長	<p>それも次回にご意見を持ち寄っていただくことになっています。では、この後の進行を事務局に戻します。</p>
事務局	<p>次回審議会の開催日についてお知らせいたします。次回は、1月8日（金）の午前もしくは1月13（水）の午後での開催を予定させていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>（調整）</p> <p>それでは、1月8日に決定させていただきます。場所は開催通知でご案内させていただきます。</p>
石関会長	<p>ただ今をもちまして、第4回四條畷市総合計画審議会を終了いたします。皆様、長時間ありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>